

公認心理師科目「社会・集団・家族心理学」に対する本学会の見解

日本社会心理学会では、公認心理師受験資格に関わる学部科目「社会・集団・家族心理学」について、今後、学会としてどのような意見表明をするか、その基礎資料収集のために会員向けアンケートを2020年10月に実施しました。アンケートの結果、「社会・集団・家族心理学」という科目名を使用し続けることに反対を示した会員は65.9%(N=214)と過半数を大きく上回りました。アンケートの中では、“社会心理学と家族心理学は異なる分野であり、1つの授業科目として行うことには無理がある”“当該科目名を使い続けることで、学部教育における『社会心理学』という学問のアイデンティティが失われてゆく”“家族臨床の部分(ex 家族療法、不適切な養育、家庭内暴力・夫婦間暴力など)については、社会心理学に関する専門的知識を生かした授業が困難である”などの意見が寄せられました。

アンケート結果

<https://www.dropbox.com/s/fk1svq04hsecoll/%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%82%B1%E3%83%BC%E3%83%88%E7%B5%90%E6%9E%9C.pdf?dl=0>

上記アンケート結果を踏まえ、2020年11月7日に開催されました2020年度日本社会心理学会総会において、公認心理師科目「社会・集団・家族心理学」に対する本学会の見解を表明するための提言内容が審議されました。審議の結果、

『日本社会心理学会は、「社会・集団・家族心理学」という科目名を今後使用し続けることに賛同できない。授業で教えるべき内容を鑑み、「社会心理学」「家族心理学」の二つの科目に分けることを提案する。』

という提言案が総会参加者多数の賛成により、承認されました。

これらの結果をふまえ、本学会では、「社会・集団・家族心理学」という科目名を使用し続けることを止め、「社会心理学」と「家族心理学」という2つの領域の心理学科目に分けることを強く求めます。

2021年3月1日
日本社会心理学会会長
唐沢 かおり